第 2016-43 号

恵みと真理のニュース

2016 年 10 月の四次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］ 危急な状態だった私に治療の手を出してくださり、すべての家族が大きい恵みを受けて生きるように導いてくださった神様の愛に感謝を捧げます

私はイエス様を信じない家庭で生まれ育ちました。幼年の頃、周りの人々が教会に通うのを見ると良く見えてなんか違う人々と思いました。キリスト教学校に入学した後、イエス様とキリスト教の信仰について知るようになって信仰が成長しました。建設会社で勤務する旦那と結婚して旦那の勤務地の地方で自分なりの信仰生活しました。しかし、礼拝に参席して御言葉を聞いても 形式的な信仰生活に止まっていました。ここスワンに定着して隣の家に住む区域長の助けによって恵みと真理教会の聖徒になりました。教会に来てから当会長の牧師が伝えてくださる説教を聴いて生きておられる主の声を聴くようになって、御言葉を愛し礼拝を捧げることに御言葉の大きい恵みと権能を体験して神霊な聖霊洗礼も受けました。このように御言葉と聖霊充満な生活をするようになった時に教区長が女性奉仕連合会で奉仕するように勧められて従順しました。喜びと感謝する心で教会と聖徒を仕える生活をしました。

私は健康に自信がありました。ところが、2007年末にとんな症状も現れなかったですが心が沈んで人々に声をかけるのが嫌でした。体に異常が出来たと思って病院に行きました。 X-ray検査にはどんな異常はなかったです。病院では MRI検査をしてみようと検査日程を決めてまず薬だけもらいました。

続けて薬を飲みましたがなかなか治らなかったです。心の状態がよくなくても御言葉の恵みを愛し力を出して 年越しの礼拝に参席しました。礼拝を捧げるときに吐き気をしました。そうしても病院に行く考えもしなくて薬だけ飲んで MRI検査の予定日を待ちました。次の日新年礼拝にも参席して御言葉の恵みを受ける心が切なかったからです。

次の日朝早く起きてのり巻きと果物を準備して区域聖徒を車に乗せてジョンウォン聖殿に行って新年祝福聖会に参席しました。ところが、午前の聖会が終わって午後聖会が終わって午後聖会があるのに区域の生徒何人が自分が準備して来た食べ物も食べなくてそのまま家に帰るとしました。知ってみると無表情だった私の表情を見て誤解したのです。聖徒達に私の体の状況話して最後の時間までともに切に神様を仰ぎ祈りました。平日に区域礼拝に参席して礼拝を捧げる時に話すのが不自然になり声を出して祈りをすることが出来ませんでした。かろうじて礼拝を終わって家に帰ってすく横になりました。この時、ちょうど娘と友達が来て私の姿を見てすぐ大学病院の応急室に運びました。医師は私の状況が悪くてすぐいろいろな検査をしました。医療検査機器で撮影したときに大きい音もして当時に昏睡に陥りました。血管奇形による脳出血でした。今まで頭の中で血が流れていましたが、何日間は痛みを感じられないほど神様は御言葉の恵みを愛する私を掴んでくださいました。そして、少し遅くなったら回復もできなかったですが娘が予定なく家に入るようにしてくださり私が応急室に行くように導いてくださいました。また、出血が続けて流れて早く手術するしかない状況で神様は 適期に止血がになるようにしてくれたことに私は無事に手術を受けることができました。手術を受けて昏睡状態になっている時に当会長牧師が来られると話をちらっと聞きました。その話に驚いて目を覚めました。本当に出入門から牧師と奥さんが入ってくる姿が見えました。"本当に来るのだ“うれしくて感謝でした。牧師が祈ってくださって、精神が清くなって力ある声でアーメンと答えました。牧師の祈りを受けてその次の日に集中治療室から一般病棟に移動しました。そしてどんな後遺症もなく早く回復して10日ぶりに退院しました。神様が治療してくださいました。ハレルヤ！私が病院にいる間教会で多くの聖徒が祈ってくださいました。祈ってくださった方に感謝します。

健康を回復した私はイエス様を信じない親と兄弟と隣の人々のため祈って伝道する生活をしました。実家の村には教会がなくてそこで住む方々ひ福音を接する機会がなかったですが、教会が建てられました。とてもうれしくて感謝でした。私はよくふるさとに行って福音を伝えました。神様の時になると母親を教会に導いてくださって恵みを与えてくださいました。子供のような信仰で信仰生活をした母は執事になり朝祈り会も行って子供たちのため祈る母に変化されました。

何年をそのように熱心に信仰生活をしたが道路拡張で実家が撤去されると、やむなく兄ちゃんの家に行くようになって、教会が離れて熱心に信仰生活をしないようになりました。そうしながら、体が弱くなり私の家の近くの大学病院に通い治療を受けました。母は病院に来るときに車酔いで私の家によって休んだりしましたが、その時になると私の教会に行って礼拝も捧げて心が平安になりました。神様は母が天国に行く前まで 楽に暮らしますようお迎えしなくちゃいけないという心をくれました。 私の家で暮らしながら再び礼拝中心の生活をして母の健康もよくなりました。そして、ある日10年の歳月が過ぎました。私が"神様、神様がくださる恵みと力で平安に生きながら主の手を掴んで天国に行くようにしてください。”と母のため祈ると母はアーメンと答えます。神様は子供たちにも大きい福を与えてくださいました。化学を専攻した息子は国が建てた大学院に入り学位を受けて研究室で勤務していて、経営学を勉強した娘は外国会社で専門職で勤務しています。真実な信仰で神様を畏れ委ねて愛する子供たちになるように導いてくださり誇られる子供たちになるように神様が助けてくださいました。

私の家族を神様の子供としてくださり尊い御言葉と聖霊で人生を豊かに導いてくださり、救いの恵みを与えてくださった神様に感謝と賛美を捧げます。神様がくださった奉仕の職分を忠誠して担えると思いますが自分のいろいろ足りないことを感じます。神様が許可する日まで最善を尽くして忠誠奉仕する生活をすることを決心して神様にすべての栄光を捧げます。

［信仰コラム］ 卓越な考えで生きていきましょう

"...天が地よりも高いように、わが道は、あなたがたの道よりも高く、わが思いは、あなたがたの思いよりも高い。..."（イザヤ 55:8、9）

学んだことが少なくても考える態度が卓越な人がいる反面、多く学んでも考えが幼稚であり劣等な人がいます。"考えが行動を生んで行動が習慣を生み、習慣が人格を形成する"という格言があります。本日自分の考えが明日の人格になり生活の現実になるということを私達が知ってこれを積極的に適用すべきです。聖書は考えることの重大さと共に卓越に考える秘訣を啓示しています。

第一、考えることの重大さについて調べてみましょう。聖書に"彼は心のうちで勘定する人のように"（箴言 23：7）と記録され、"地よ、聞け。見よ、わたしはこの民に災をくだす。それは彼らのたくらみの実である。"（エレミヤ 6:19）と記録されています。聖書ヨブ記には災いをもらたす考えに対する深奥な教訓があります。財産が誠に多くて 7 人の息子と 3 人の娘と共に豊かな生活をしていたヨブが突然、下人と家畜を失い子供まで一時に失っただけではなく体の全体が悪性腫瘍で覆われ苦痛の中で生活するようになりました。その中でヨブは一つ驚くべきな悟りを得ました。"わたしの恐れるものが、わたしに臨み、／わたしの恐れおののくものが、わが身に及ぶ。"ということです。ヨブはある日からもし、彼に恐ろしい災難が降りかかるのではないかという考えをしました。その考えはますます具体化され彼はそのような考えに深くはまり込んでいきました。遂に、その考えが現実化になってしまいました。考えは私達の品性や判断力、健康に影響を及ぼします。災いをもたらしたり助ける神様の手を捕まえるようにもします。

第二、卓越な考えをする秘訣を調べてみましょう。

卓越な考えの中で最も卓越な考えは神様の考えであります。エホバのお言葉に"わが思いは、あなたがたの思いとは異なり、わが道は、あなたがたの道とは異なっていると／主は言われる。天が地よりも高いように、わが道は、あなたがたの道よりも高く、わが思いは、あなたがたの思いよりも高い。"としました。聖書に記録された偉人と勇士が持った卓越な行動は彼らが持った卓越な考えから始まりました。彼らの卓越な考えの出所と根源は神様のお言葉でありました。ヘブリ書 11 章に羅列された信仰の偉人に関する記録を見ると彼らは自分の心のなかを神様の考えで満たしました。自分の考えが神様の考えと異なるとしたら仮借なく自分の考えを捨てました。12 人の回し者に関する話は考えの差によってもたらされる結果の差をとても対照的に見せてくれます。10 人の回し者は神様の考えを受け入れることを拒んで自分の考え通りに行い破滅を迎えました。その反面、ヨシュアとカレブは自分の心を空けて神様の言約に現れている神様の考えを受け入れて神様の認定を受け、カナンを受けました。

神様は私達のお祈りに耳を傾けてくださる一方で私達の考えをうかがいます。幸いで成功的な生活は考えと不可分の関係があります。現在暗くて，苦しくて，問題が多くても皆さんの考えは現実に縛られずに明日に対して所望的な考えを持ってください。変化を考えて奇跡を期待してください。自分の考えを変えることはあまり難しいことではありません。ただ、決断が必要であります。聖書にはキリストの中にいる聖徒について神様が如何がに考えるかを記録しておきました。聖徒は正しい人、聖なる人、神霊な人、愛される人、豊かな人であります。勝利者であり、幸福な人であります。皆さんはこのような神様の考えに合う皆さんの姿を考えてください。

生まれた家柄、時代、場所、男女の性、遺伝的資質のように人には変更することができない状況ということがあります。このように与えられた条件が彼の一生に及ぶ影響はとても大きいです。しかし、自分の決断と選択、努力で変更することができることの中には心の考えがあります。この心の考えは与えられた状況を越える程、その人の生涯に重要な影響を及びます。死後まで決定的な影響を及びます。私達が現実と未来、永遠な生活まで及ぶ卓越で福のある考えを持ちながら生きていくことができる秘訣は神様の考えをそのまま受け入れて自分の考えになるようするのであります。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

健康と治癒のためにこんなに言いましょう

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

神様は人の身と心が密接な相互関連性を持つように作りました。 心に信仰と所望を満たせば疾病に対する免疫力と治癒に肯定的な影響を及ぼします。 また心は私たちが言うことに深い影響を受けます。 神様は言葉の大切さとその威力に関して天地創造を通じて明らかに啓示してくださいました。 神様のお話がある前には全世界は混沌と空虚と暗闇の状態にありました。 ところで神様が創造の初めの日 “光がありなさい。” おっしゃると光が生じたし、続いたお話によって秩序あって美しくて豊かな世界が創造されました。 聖子の神様である私たち救主イエスキリストもお話で風浪を静かにさせたしお話で鬼を追い出したし死亡者をお話でいかしたし病んだ者をお話で医やしました。

このような神様が神様の形状と形どおり人を作って人にも言う機能をくださってその言葉に権能が従わせました。 人の言葉は新しい現実を作り上げて状況を変化させる力があります。箴言に記録されるのを “正しい者の口は命の泉である、悪しき者の口は暴虐を隠す。”(箴言 10:11)、“ 人は自分の言葉の結ぶ実によって、満ち足り、そのくちびるの産物によって自ら飽きる。”(箴言 18:20) しました。 神様が人を造られて人の言葉に権能が従わせたから聖書の多くの所で言うことに対する注意点と大切さを力説しています。 聖書は神様の恩寵を受ける言葉、神様の権能が現われさせるものを言う方法を教えてくれています。 これを何種類で分けてよく見ます。

第一は、イエス様に対して自分が持った信仰を声を出して言わなければなりません。

イエスキリストがガイサリャビルリボの地方で弟子に “すると、イエスは彼にむかって言われた、「バルヨナ・シモン、あなたはさいわいである。あなたにこの事をあらわしたのは、血肉ではなく、天にいますわたしの父である。そこで、わたしもあなたに言う。あなたはペテロである。そして、わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう。黄泉の力もそれに打ち勝つことはない。わたしは、あなたに天国のかぎを授けよう。そして、あなたが地上でつなぐことは、天でもつながれ、あなたが地上で解くことは天でも解かれるであろう」。”(マタイによる福音書 16:17～19)でおっしゃいました。 ペテロがイエス様に対して自分の信仰を声を出して言ったらイエス様が押して振ってあふれるように恵まれたお話を加えました。 イエス様に対して皆さんが持った信仰を声を出して言ってください。 “イエス様は私に喜びと平安をくださる神様です。” “イエス様は私を治療する医者です。” こんなに言うことを楽しんでください。 そんなにすれば神様の恵みと権能が加えられることを体験するようになるでしょう。

二番目は、信仰で言い付けなければなりません。

ある日イエスキリストが弟子とともに道を通っている途中実がない無花果に向けて “今から後いつまでも、おまえの実を食べる者がないように」と言われた。弟子たちはこれを聞いていた。 “よく聞いておくがよい。だれでもこの山に、動き出して、海の中にはいれと言い、その言ったことは必ず成ると、心に疑わないで信じるなら、そのとおりに成るであろう。”(マルコによる福音書, 11:23) しました。 信仰で言い付ければ大きい問題も除去されて、揺之不動の問題も移される奇蹟がよるようになるというお話です。 今日も神様は私たちが信仰で言い付ける時に権能を現わします。 皆さんは神様の約束とイエスキリストのあがないの恵みを頼って言い付けてください。 皆さんを有害にさせるすべてのものなどに対して退きなさいとイエスキリストの名前で言い付けてください。 病魔と疾病を向けて退くように言い付けてください。

三番目は、信仰と所望のものを言うのが習慣になるように練習しなければなりません。

信仰と所望のものを言うのが習慣になった人々の例を挙げます。 タビテは敵に包囲されて悪い消息が聞こえても神様を頼って信仰と所望のものを言いました。 詩編 3 編に見ると “主よ、わたしに敵する者のいかに多いことでしょう。わたしに逆らって立つ者が多く”(詩編 3:1)と彼が当面した状態を言及した後にこんなに言いました。 “しかし主よ、あなたはわたしを囲む盾、わが栄え、わたしの頭を、もたげてくださるかたです。わたしが声をあげて主を呼ばわると、主は聖なる山からわたしに答えられる。[セラ” (詩編 3:3,4)と言いました。 タビテはこのように神様を頼って信仰と所望のものを言った結果で災いが転じて福となすの恩寵を数えきれなく体験することができました。 使徒パウロは患難に会う時 “それだけではなく、患難をも喜んでいる。なぜなら、患難は忍耐を生み出し、忍耐は錬達を生み出し、錬達は希望を生み出すことを、知っているからである。”(ローマ人への手紙 5:3,4)と言いました。 使徒パウロは逆境の中にある時に “神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。”(ローマ人への手紙, 8 :28)で言いました。 疎い地域で逼迫する者は多くて自分の不足を感じる時には “わたしを強くして下さるかたによって、何事でもすることができる。”(ピリピ人への手紙 4:13)で言いました。 彼がこのように信仰と所望のものを言うことですべての難関をかきわけて諸所に教会を建てて福音を広く伝えることができたのです。

四番目は、持続的で一貫されたものを言わなければなりません。

信仰の言葉を始めたらその言葉が持続しなければならないし一貫されなければなりません。 自分が持った期待に行き違う状況に処しても専ら信仰のものを言わなければなりません。 イエス様は公生涯の期間にただ一度異邦人地域であるヅロにいらっしゃいました。 ある異邦女人がイエス様にお会いするために駆けて来て大声を出しました。 “するとイエスは答えて言われた、「わたしは、イスラエルの家の失われた羊以外の者には、つかわされていない」。しかし、女は近寄りイエスを拝して言った、「主よ、わたしをお助けください」。 イエスは答えて言われた、「子供たちのパンを取って小犬に投げてやるのは、よろしくない」。 すると女は言った、「主よ、お言葉どおりです。でも、小犬もその主人の食卓から落ちるパンくずは、いただきます」。そこでイエスは答えて言われた、「女よ、あなたの信仰は見あげたものである。あなたの願いどおりになるように」。その時に、娘はいやされた。” としました。 これは異邦女人にはこれ以上の懇請することができないようにする断固たる拒否意志の表明です。 それなのに女人はイエス様の足の下に伏せて切り下げや “神様よ、私を助けてください。” と訴えました。 この女人はイエス様を向けて一様な態度を持って一貫性あるものを言いました。 イエス様が異邦女人になさった回答のお話がマタイによる福音書と マルコによる福音書にそれぞれ次のように記録されました。 “女よ、あなたの信仰が大きくなり。 あなたの願いどおりになろう。” あなたがこの話をしたから帰りなさい。 鬼があなたの娘から出たのだと。” イエス様はその女人のイエス様に対する一貫された信仰の態度と言葉をきいて治療の恩寵を施しました。 神様の愛と能力を徹底的に信じて一貫されるように信仰のものを言う人は誰も神様の助けを受けることができます。

五番目は、神様のお話を従ってないものをあるもののように呼ばなければなりません。

アブラハムは死亡者をいかしてないものをあるもののように呼ぶ神様を信じました。 そして自分も神様の約束に基づいてないものをあるもののように呼びました。 神様がアブラハムをアブラムからサレをサラで名前を替えてくださいました。 アブラハムは列国の父になって、サラは列国の母でいいように約束を付け加えておっしゃいました。 その日から二人はまだ子がいないにもかかわらずアブラハム、サラとないものをあるもののように呼びました。 聖徒も神様の約束のお話に根拠してないものをあるもののように呼ばなければなりません。

六番目、神様を向けて感謝の言葉だけ言わなければなりません。

私たちは不平と恨みのものを言う習慣を必ず直さなければなりません。 感謝の言葉だけ言わなければなりません。 世の中の人々は好きな時は感謝するがつらくて息苦しくて難しい事がある時には不平を言うしかないです。 しかし聖徒はすべての事にいつも感謝することができます。 いくら難しい事に会ってもイエスキリストにあって見れば感謝することができる条件を見つけることができます。 神様が約束したお話を通じて見れば感謝する理由をいくらでも探すことができます。 感謝の言葉はストレスを解消させます。 免疫の細胞を活性化させます。 病気の癒しの恵みが臨ませます。 詩編 50 編 23 節に “感謝のいけにえをささげる者はわたしをあがめる。自分のおこないを慎む者にはわたしは神の救を示す」。” としました。

今日は神様の恩寵を受ける言葉、神様の権能が現われさせるものを言う方法をよく見ました。 皆さんはこのような方法のどおり行って健康と治癒だけではなく生活全般に有益な結果を体験するように願いします。